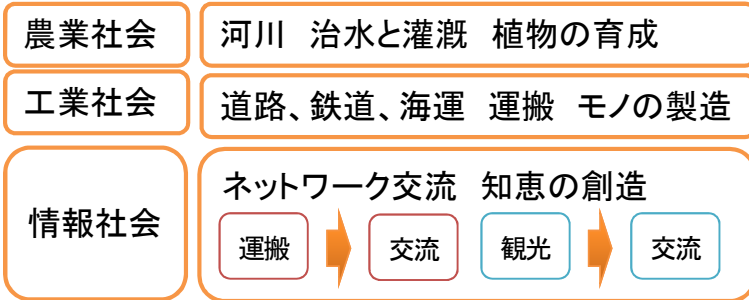


（工業社会から情報社会へ）



（「交流」がキーワード）

- モノやアイデアの交換：インターチェンジ
- 五徳：創造、学習、友好、合力、絆
- 効果測定：人口動態、起業数、税収、交流経済

●情報十則

- 1 情報はモノやサービスを生み出す元。価値の源泉
- 2 情報の生産財は人間（頭脳） 人間資本主義
- 3 情報は誰でも生み出せる。男女、年齢など関係無し。機会均等
- 4 情報は頭脳が生産する。脳が喜べば生産性が上がる。頭脳労働
- 5 情報は異質な人間（情報）相互の接触から創発する。多様性
- 6 情報の生産性は、多種・多様な多数の人間（頭脳）の共創で向上。
- 7 情報は時間と空間を超越し瞬時に世界に伝播する。バリアフリー
- 8 情報は独占できない。共有・共用が本質的属性。シェア
- 9 情報は使っても減らない。むしろ増える。使用効果逡増。
- 10 情報は陳腐化が速い。時間との競争。スピード

（21世紀型社会資本体系）

①交流インフラ

●「移動」と「滞留」の時間と空間を「ゆとり」と「楽しみ」のあるものに演出。道の駅や高速道路インターチェンジとバス停を魅力ある「滞留拠点」として複合的に整備。

⑤都市インフラ

●関係者が相談したりする「たまり場」。公民館など、面倒な手続きなしで自由に使えるフリースペース。「人材インフラ」の人たちの活動舞台となる。

②運搬インフラ

●新幹線の駅周辺は大都市の企業の危機管理センター、データセンター、本社の移転先として脚光を浴びる時代が来る。駅の機能を再考すべき。

⑥自然・伝統インフラ

●地域で守られて来た美しい自然や温か人情は貴重な財産。大都市との交流や外国観光客の受け入れには欠かせない。農山村文化は日本の伝統的アイデンティティ。

③コミュニティインフラ

●自治会、消防団、医療や福祉の団体など、地域共同体を維持するインフラの確保や再生し、連携ネットワークを構築し、「絆」を固める。

⑦アイデンティティインフラ

●地域のヒカリとなる魅力や個性。外部の「鑑定団」に評価を依頼する（宝探し）。結果はインターネットで公表する。掘り出した宝は更に磨きをかける。

④人材インフラ

●地元の若者、女性、外来者などが中核になり地域活性化を目的に情報、行動、成果を「共有」する「信頼」と「助け合い」のネットワーク。リーダーの存在がカギ。

⑧デジタルインフラ

●情報技術（IT）や情報通信技術（ICT）抜きではビジネスも生活も十分に機能しない。クラウド（CROWD）ソーシングやクラウドファンディングで委託や資金調達。

（交流促進政策及びIフロントイメージと推進方策）

i. 地域と大都市との交流

- 潜在資源の開発
- 事業候補探索（耕作放棄地開墾等）と差別化
- 屋内・屋外「健康道場」 ●空間活用 等

iv. 人材育成

- 活性化グループ（若者、よそ者、女性）の結成
- 地域内交流を調整する「シティマネージャー」の設置
- 大学や関係団体との連携や地域外とのネットワーク形成

ii. 国土・地域空間の変容

- 国土・地域のデュアル化 2重構造化
- 接点・交差点・交流に相当する空間・結節点の配置、Iフロント（ブロック1か所イメージ）ネットワークの構築

v. Iフロント整備戦略指針

- IT、ICT産業の先行的誘致と都市の情報化
- 人材誘致と企業誘致窓口の設置
- 地域の知的生産性向上、起業家育成

iii. Iフロント整備の基本的考え方

- 地方移住希望の若者を引きつける環境や条件を整備
- クラウドシステムの効果的な活用

vi. 実現に向けての検討ステップ

- 様々な視点（女性、外来者、専門家等）で複眼的検討
- 地方創生本部を通じて各省庁の協力を得る